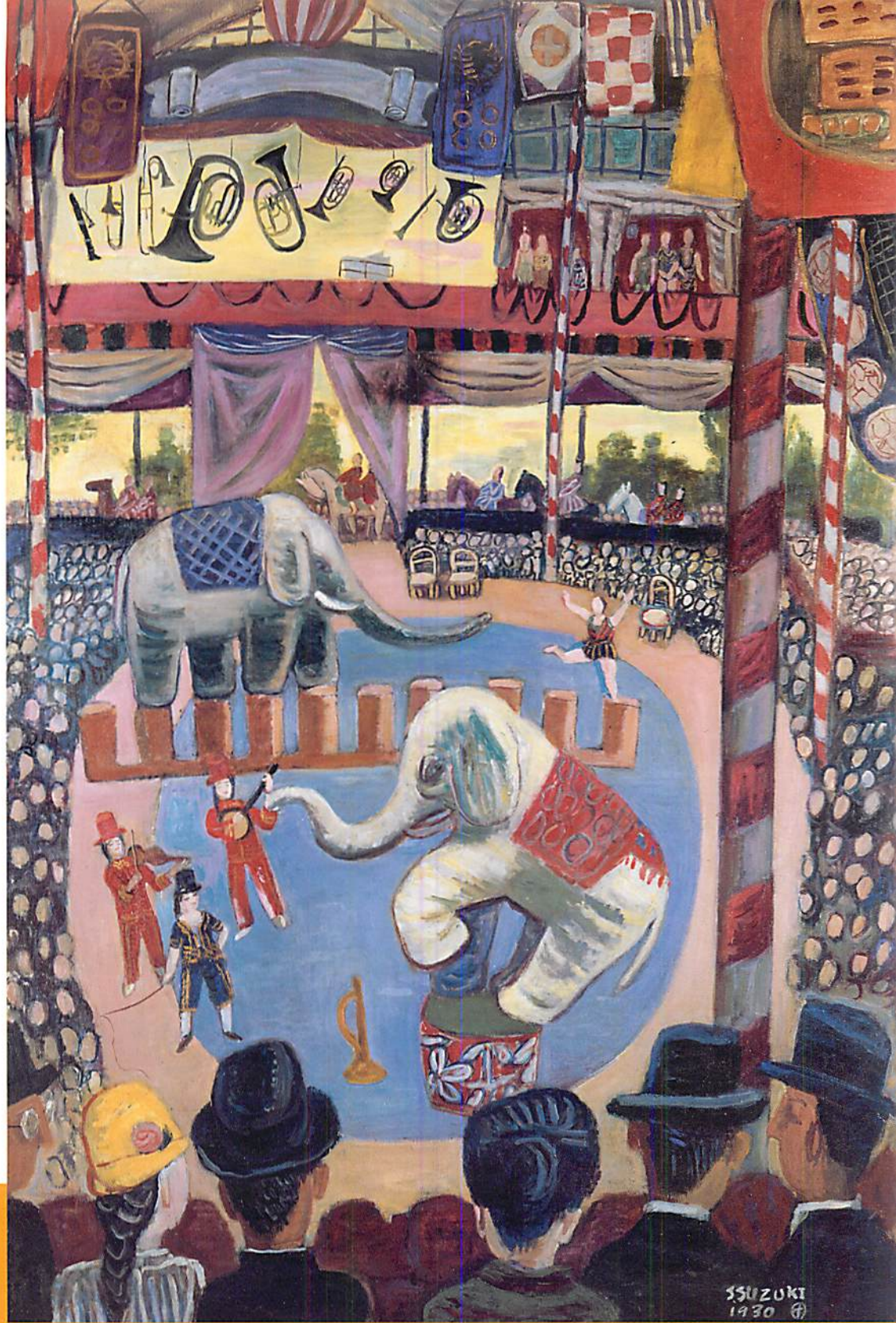


鈴木信太郎

SHINTARO
SUZUKI

展

親密な空間、色彩の旅人



「象と見物人」1930年 / 財団法人そごう美術館蔵

企画展示館

2007 | 2月10日(土) — 4月8日(日)

開館時間 午前9時30分～午後5時(入館受付は4時30分まで) 休館日 毎週月曜日(2月12日は開館、翌日休館)

主催 財団法人日動美術財団 後援 茨城県 / 茨城県教育委員会 / 笠間市 / 笠間市教育委員会

協力 財団法人そごう美術館 / 大村コレクション / 社団法人北里研究所 / 財団法人八王子市学園都市文化3つれあい財団

入館料 大人1,000円、大学・高校生700円、中学・小学生500円、65歳以上800円(20名以上の団体は各200円割引)
香風萬里在との共通券 大人1,400円、大学・高校生900円、中学・小学生600円、65歳以上1,100円(20名以上の団体は各200円割引)

特別展示

奥谷博

日本・アメリカ館

1934年高知県生まれ、東京藝術大学油画科卒、林武に師事。日本芸術院会員、独立美術協会会員、第1回昭和会賞、芸術選奨文部大臣賞、第3回宮本三郎記念賞、第18回安田火災東郷青児美術館大賞、日本藝術院賞など受賞多数。2007年3月、TBS・ユネスコ本部で「訪ねた世界遺産」と題し展覧を開催。

www.nichido-garo.co.jp/museum/

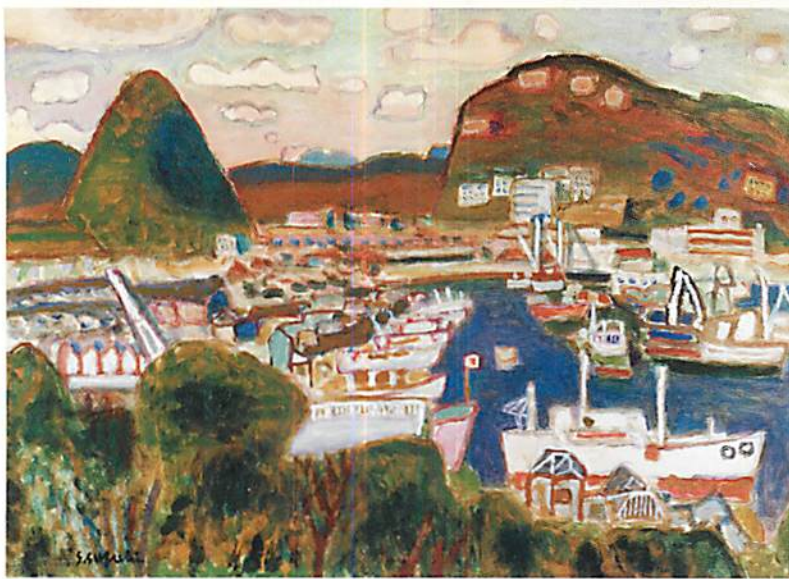
笠間日動美術館

茨城県笠間市笠間978-4 tel 0296-72-2160



「大和思考(演)」1992年

親密な空間、色彩の旅人



「下田港風景」1971年 / 財団法人そごう美術館蔵



「花と魚貝」1936年 / 財団法人そごう美術館蔵



「東京の空(数寄屋橋付近)」1931年 / 財団法人そごう美術館蔵



「どくろ」1939年 / 社団法人北里研究所蔵



「靴屋」1931年 / 財団法人そごう美術館蔵



「孔雀の庭」1927年 / 社団法人北里研究所蔵



「伊豆の漁村」1963年 / 財団法人そごう美術館蔵



「コスチューム」1953年頃 / 社団法人北里研究所蔵

鈴木信太郎展

2月10日(土) - 4月8日(日)

鈴木信太郎は明治28(1895)年、東京八王子の生糸業を営む裕福な商家に生まれました。跡取り息子として育てられますが病気のために身体が不自由になり、好きな絵画の道を歩もうと15歳で黒田清輝の主宰する白馬会洋画研究所に入所します。大正11(1922)年27歳で第9回二科会に初入選を果たし、以後石井柏亭に師事しながら二科会に作品を発表し徐々に頭角をあらわしました。戦後は二科会の再興に加わりますが、昭和30(1955)年退会して一陽会を結成、晩年まで精力的に制作活動を続け、平成元(1989)年、93歳で逝去しました。

終生杖や車椅子を必要とする生活をおくりながらも、鈴木は奈良、長崎、北海道、伊豆など全国各地に赴き、椅子に腰掛けまた地面に座るなどして制作を行い多くの風景画を生み出しました。また花や果物、人形といった身近な題材を独特のフォルムで描き、多彩な静物画を残しています。童心を感じさせるその愛らしい画風は、没後20年近くを経てなお美術愛好家に親しまれています。

本展では、質の高い鈴木作品を所蔵するそごう美術館、大村コレクション、北里研究所、八王子市夢美術館から約100点を紹介いたします。初期から晩年にいたる画業の数々をご鑑賞ください。

参加しよう!! MUSEUM EVENT
あなたが見た鈴木信太郎

鈴木信太郎の絵について、あなたの感想をお寄せください。優秀な作品はホームページで紹介いたします! 詳しくは会場、ホームページにて。

特別展示
奥谷 博【会場:日本・アメリカ館1F】
日本アメリカ館1階では、展示作品を変え、引き続き奥谷博を特別展示いたします。大作で構成された迫力ある展観をお楽しみください。

ごいっしょに
景德鎮千年展 1月20日~3月21日
-皇帝の器から毛沢東の食器まで-
茨城県陶芸美術館 tel 0296-70-0011
加山又造展 2月17日~3月25日
茨城県近代美術館 tel 029-243-5111



www.nichido-garo.co.jp/museum/
笠間日動美術館
茨城県笠間市笠間978-4 phone 0296-72-2160